

## 平成28年度千葉市一般会計・特別会計歳入歳出決算及び基金運用状況審査意見の概要

### 1 一般会計・特別会計歳入歳出決算

#### 審 査 の 結 果 [意見書P. 5]

各会計の歳入歳出決算及び政令で定める書類は、いずれも法令に基づいて作成され、記載された計数は正確であるとともに、予算執行及び財産管理の状況についてもおおむね適正であると認められた。

#### 審 査 に お け る 意 見 [意見書P. 23-25]

##### (1) 一般会計

○「第2期財政健全化プラン（平成26年度～29年度）」の中で、主要債務総額の削減を主要目標に掲げ、財政健全化に取り組んでいる。

これにより、主要債務総額は着実に削減されており、目標を達成する見通しであるが、基金借入金については、数値目標である20億円の返済を行う一方で、新たに10億円の借入を行っている。また、市債管理基金以外の基金については、最長12年間返済されていない。

それぞれの基金は、特定の目的のために設置されたものであり、その貸付期間が長期にわたり、かつ、多額になることは、基金本来の目的の達成に支障をきたし、基金の存在意義が問われることとなる。基金から一般会計への貸付けについては、縮減に努められたい。

○地方交付税の算定に用いる基礎数値に誤りがあり、基準財政需要額を約13億円分過大算定しており、地方交付税の交付額及び臨時財政対策債の発行額が過大となっていた。

この過大額については、財政調整基金に積み立てるなど、将来の精算時に財源不足とならないよう努められたい。また、基準財政需要額の算定に当たっては、交付税担当課と数値所管課との連携を強化し、算定誤りがないよう基礎数値の確認を的確に行われたい。

##### (2) 特別会計

国民健康保険事業特別会計については、「第2期国民健康保険事業財政健全化に向けたアクションプラン（平成27年度～29年度）」に基づき、歳入の確保に取り組んできたところではあるが、前年度と比較し、保険料の徴収率が0.3ポイント悪化しており、引き続き一層の取組みの強化を図られたい。

一方で、歳出抑制の観点からは、ジェネリック医薬品の利用割合の向上は見られるものの、「国民健康保険データヘルス計画」における個別評価の対象事業である、生活習慣病の予防を目的とした特定健康診査及び特定保健指導の実施率は目標に対して低い水準にあり、引き続き施策の推進に取り組まれたい。

##### (3) 財産管理

公共施設等の管理等については、引き続き、「公共施設等総合管理計画」に基づき、総合的かつ中長期的な視点による取組みを着実に推進されたい。

##### (4) むすび

本市の財政状況は、これまでの財政健全化の取組みによる成果が認められるものの、基金からの借入れや退職手当債の発行などの財源対策を継続的に実施するなど、財源確保が厳しい状況に変わりはない。

また、健全化判断比率のうち、実質公債費比率及び将来負担比率については、前年度と比較していずれの比率においても改善しているが、他の政令指定都市と比較すると依然として高い水準にある。

今後とも財政健全化プランに基づき、財政の健全化に積極的に取り組むとともに、将来にわたり自立し持続可能な都市の確立に向けた財政運営を推進されるよう要望する。

### 2 美術品等取得基金運用状況

#### 審 査 の 結 果 [意見書P. 63]

運用状況報告書の計数はいずれも正確であり、また、管理運用の状況についても適正であると認められた。